

年 組 名前：

ブドウ剪定枝で花火 市川三郷の会社

花火を販売する会社「タチカワ」（市川三郷町）が、剪定したブドウの枝を炭にして、火薬を混ぜた手持ち花火「葡萄の炭火」を作りました。会社が運営する専門店「はなびかん」を訪れた客から「山梨でしか買えない花火がほしい」と言われたのがきっかけ。ブドウ農家で毎年、大量の剪定枝が出て処分困っているという話を聞き、花火にすることを思い付きました。約250キロのブドウの枝を畑で焼いて炭にした後、2～3週間かけて天日干しで乾燥させ、協力工場の機械でつぶして粉末に加工。それを花火用の火薬と調合し、オレンジ色の単色で表現する「和火」の手持ち花火に仕上げました。立川靖社長は「処分する枝を有効活用しつつ、山梨らしい花火として全国にPRしたい」と話しています。



ブドウの剪定枝を炭にして作った手持ち花火「葡萄の炭火」を持つ立川靖社長 市川三郷町高田

(2023年7月27日付 山梨日日新聞 週刊こびっと10面)

問1 花火の販売会社が作った「葡萄の炭火」は、どのような花火ですか。

.....

問2 どのようなきっかけで、「葡萄の炭火」を作ろうと思いましたか。

.....

問3 「葡萄の炭火」は、何色で表現する手持ち花火ですか。

.....